

開業医でいち早く経鼻内視鏡を採用したパイオニア  
 おうと  
**嘔吐反射が少ないので喉頭がんの発見にも貢献**  
 こうとう



## 天下堂医院

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-11-15 TEL.03-3302-1751 FAX.03-3302-1752  
 URL <http://www.myclinic.ne.jp/tenkadou/pc/>

天下堂医院は、兩宮明文院長の父親・寛彦名誉院長が開業して50年になる。何世代にもわたる患者さんを診てきた、地元で最も古い医院だ。  
 経鼻内視鏡での検査を開始したのは、2004年7月から。それまで国立相模原病院の外科医長だった明文医師が、天下堂医院の院長になったのが採用のきっかけだった。

「それまでうちの医院にはバリウムによるX線検査しかありませんでした。私が診療に専念するためには内視鏡が不可欠だったので、たまたまその頃、出始めた経鼻内視鏡に決めたのです」  
 開業医では最も早い採用だったために、5月から約2カ月間、手探りで使い方を研究したという。

「メーカーの資料をもとに、自分で鼻腔麻酔を注入し、時間を計りながら何回もスコップを挿入してテストしました。何分までは痛かったが、何分から痛くなくなった、とデータをとったのです。当時は経鼻内視鏡を誰も使っていなかったため、自分で研究するしか方法がありませんでした」  
 診療の合間に最善の方法を研究し続け、満を持して2カ月後から使用に踏み切った。その間の苦労は、すぐに実を結ぶこととなる。医学書の出版社から、経鼻内視鏡の使い方について、医師向けの専門書を書いてほしいと依頼が来たのだ。

2006年9月、『消化器医のための経鼻内視鏡検査入門』（文光堂・共著）を刊行。反響は大きく、すぐに3刷りを数えた。その後、各地の医師会などで、内視鏡医を対象とした講演も多い。  
 「講演のポイントは、前処置における麻酔のノウハウと、鼻腔をどう通過させるかです。私は経口内視鏡では1万例以上の経験がありますが、耳鼻咽喉科のことは分かりませんでした。これから始める方は、そこを一番知りたいのです」

天下堂医院での上部消化管内視鏡検査数は、3年数カ月で430例。そのほとんどが経鼻内視鏡で行われ、9割以上の患者さんが「楽だった」と答えた。

「特に、健康診断でX線の異常が発見されながら、胃カメラを飲むのが嫌で二の足を踏んでいた方から感謝されています。ホームページで調べて、遠方から来る方も少なくありません」  
 兩宮院長が強調するのは、経口内視鏡だと食道から先の検査しきれないのに比べ、経鼻内視鏡では鼻腔、咽喉、喉頭をじっくり観察できるメリットだ。実際に兩宮院長は、外来の患者さんの声門にできた喉頭がんを発見し、がんセンターへ紹介した実績もある。嘔吐反応が大きい経口内視鏡では、発見が困難な事例だったと言えるだろう。

「かかりつけ医として、楽な検査をお勧めしたい」と語る兩宮院長は、1年に1回は胃の内視鏡検査を受けてほしい、と呼びかけている。

### INFORMATION

- 診療科目  
内科、外科、消化器胃腸科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、肛門科、神経科、アレルギー科、放射線科、理学療法科
- 診療受付時間  
平日（木曜を除く）/9:00~12:00、16:00~20:00  
土曜日/9:00~12:00
- 休診日  
木曜日、土曜日午後、日曜日、祝日
- 内視鏡検査  
胃内視鏡検査は電話か来院して申し込み、予約日を決める。通常、土曜日に検査を行う。



院長 兩宮明文